

⑥奉公市 ⑧市守神社



瀧部の奉公市

江戸期の元禄年間（1668～1704）、鷲頭次兵衛（自見）は滝部村の開作を進めるため労働者を集め、約 20 町歩の開墾に成功した。また、人夫

募集のため現在の職安に相当する**奉公市を創始**するとともに、毎月 1 日、10 日、20 日を市日と定めたので滝部の町は繁盛した。これによって浦々の若い男女の余剰労働を農村で吸収すると同時に、市日に人々が集まり、農具、衣服、日常生活必需品などの商い、旅館、鍛冶屋、酒屋などで繁盛した。自見は宝永 3 年（1706）に死去。大正 13 年（1924）地元有志が**市守神社**を建て自見翁を祀った。農繁期前の 5 月と 9 月の奉公市には豊浦郡、大津郡、厚狭郡及び北九州方面から雇い主、豊北町角島と各浦及び向津具方面から奉公人の希望者が雲集し、滝部の町は賑わい活気を呈した。



市守神社